# 東西問答

芥川龍之介

問(とひ)　現代の作家に就いて、比較上の問題ですが、東洋種と西洋種とに区別したら如何(いかが)なものでせうか。

答(こたへ)　それは東洋種と西洋種とに分けられるかも知れない。けれども多少の西洋種を交(まじ)へて居ないものは殆(ほと)んどないと云つてもいいだらう。たとへば久保田万太郎(くぼたまんたらう)君なぞは、純日本種の作家のやうに思はれて居るが、久保田君の小説には、プロロオグと横文字に題を書いたのがある。勿論作品そのものの中にも、多分に三田(みた)文学流の西洋種を交へて居る。先づ比較的西洋種を交へない作家と云へば、徳田秋声(とくたしうせい)氏位のものだらうと思ふ。

問　葛西善蔵（かさいぜんざう）氏はどうですか。

答　葛西善蔵氏も、西洋種の交（まじ）りは少いと思ふ。

問　それでは、東洋種の作家の作品の要素をお伺ひしたいのです。

答　それは難問だね。ここに云ふ東洋種と云ふ意味は、西洋種の交（まじ）つて居ないと云ふ事だ。即ち消極的に云つたものに過ぎない。それを積極的にどう云ふ特色のあるものが、東洋種になるかと云ふ事になると、三考も四考もしなければならない。それはお互ひに面倒だし、まあ見合せる事にしよう。ただ徳田秋声氏や葛西善蔵氏の作品には、官能的にも思想的にも、

西洋人にかぶれたと云ふ痕跡が少い。それ丈けは安全に云ひ得られるかと思ふ。

×

問　風流に就いて御意見を。

答　風流と云ふ事をどう解釈するかは、文人墨客の風流は、先づ日永の遊戯である。南画南画と云ふけれど、二三の天才をのぞいた外は、大部分下らないものと云つて差支へない。僕はああ云ふ風流を弄びたくない。僕の尊敬する東洋趣味は、（前の東洋種

と混合してはいけない）人麻呂(ひとまろ)の歌を生み、玉晼(ぎよくゑん)の蘭を生み、芭蕉(ばせを)の句を生んだ精神である。煎茶(せんちや)の宗匠(さうしやう)や、漢詩人などの東洋趣味と、一緒(いつしよ)にされて堪るものではない。

問　佐藤春夫(さとうはるを)氏は風流を感覚だと云ひ、久米正雄(くめまさを)氏はそれを意志だと云つて居ますが、それに就(つ)いてのお考は如何(いかが)でせうか。

答　それは感覚と云ふ言葉の意味や、意志と云ふ言葉の意味を、はつきり制限して貰はないと、僕にはどちらにも左袒(さたん)出来ない。あらゆる芸術は感覚的である。同時に又あらゆる芸術は、意志的である。だか

ら、風流は意志だと云ふ説も、ある意味では成立つと同時に、風流は感覚だと云ふ説も、矢張(やは)りある意味ではなりたつだらう。僕はまだ両氏の議論を読んで居(ゐ)ない。両氏はどの位感覚と意志とを別のものにして、論ずる事が出来たかそれを見る時を楽しみにして居る。

問　行為を主としたものと、心境を主としたものとの差別が文芸上には、ありませんでせうか。

答　主として事件を書いたものと、主として心境を書いたものの差別は、あると思ふ。

問　それで、事件を主としたものが西洋的に、心境を

主としたものが東洋的と云へるでせうか。

答　水滸伝（すゐこでん）でも、槍（やり）の権三（ごんざ）でも、皆事件を主にして居る。しかし矢張（やは）り東洋的である。ゲエテの「さ迷へる人の歌」のやうなものは、心境を主として居る。しかし矢張り西洋的である。心境と事件とか云ふやうなものでは、東洋と西洋の区別を、大ざつぱにさへ出来ないと思ふ。要するにその作者次第だと思ふ。

×

問　将来の日本の文芸はどうなるでせうか。西洋的に

なるでせうか。又東洋的になるでせうか。

答　それはどつちになるかわからない。しかしこれだけは確実である。若し将来、西洋人が日本の文芸を珍重（ちんちよう）するとすれば、東洋的の文芸を珍重するだらう。例へば、形容の言葉にしても、「孔雀（くじやく）のやうに傲慢（がうまん）な女」と云ふのは日本人には新しい感じを与へても、西洋人には新しい感じを与へない。逆に「瓜実顔（うりざねがほ）の女」と云ふのは、日本人には珍しくないが、西洋人には珍しいだらう。一つの形容の言葉に就（つ）いて云はれる事は、作品全体に就いても云はれる事である。

（大正十五年五月）

〔談話〕

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
　　１９７９（昭和54）年４月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
２００７年６月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。